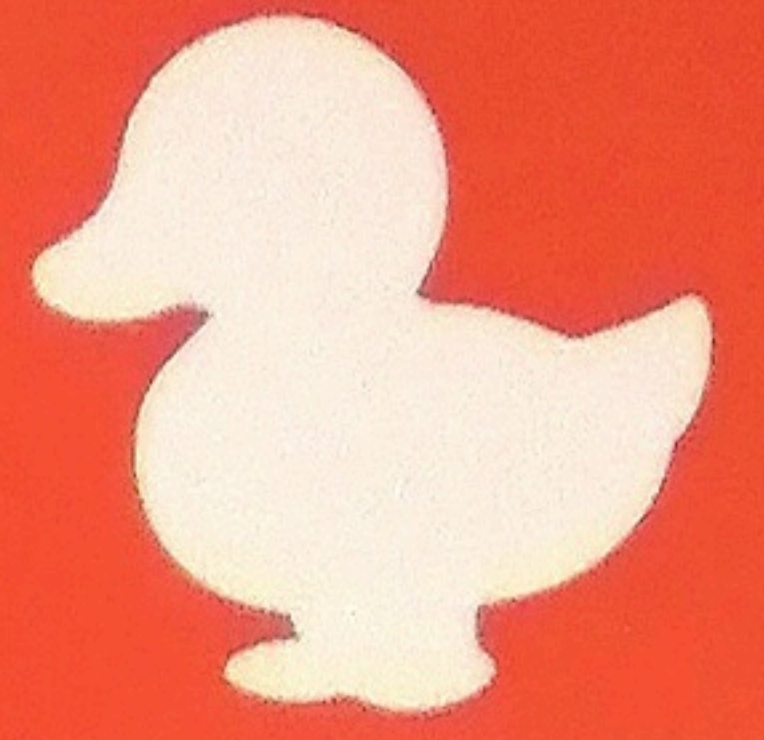


鴨川が市民に親しまれるのはなぜ？



鴨川は京都の観光地として有名であるが、同時に地元の人々からも愛される河川である
本テーマでは鴨川が人々を惹きつける理由を明らかにしていく

【鴨川はどう使われている？】

鴨川の複数地点で、アンケート調査とインタビュー調査を行った結果、**リラックス目的の訪問と景色・自然が目的の訪問が多い結果となった**
だが、それぞれ好きなことをして時間を過ごす利用者の姿が一番目立ち、**鴨川は開かれた自由な空間として利用されていることがわかった**

【他の河川と比べると？】

鴨川の特異性を明らかにするために、**天神川・桂川・宝ヶ池公園**と比較を行った

その結果…

他の河川が通過や運動の場となる一方で、**鴨川は自然体で滞在できる場所として、都市の中でも開かれた性質を持っていることが明らかに**

	鴨川	他の河川
空間の解放性	高い（視界が開いている）	低め（土手などが多いため）
滞在のしやすさ	滞在しやすい （ベンチや段差が多い）	しにくい （座れる場所が少ない）
主な使われ方	滞在（座る・休憩・会話など）	通過・運動
過ごし方の多様性	多様（読書・食事・談笑など）	限定的（散歩・運動）

【W.E.D.Oから見ると？】

「W.E.D.O」とは、国土交通省が掲げるこれからのまちづくりの方向性を示す四つのキーワードの頭文字をとったもので、**人中心の居心地の良い都市空間を実現するための指標**として位置付けられている

その指標から鴨川を評価すると

W(Walkability=歩きやすさ)...

整備された通路や、ベンチ・芝生などの座れるスペースも用意されていて、川沿いをゆっくり歩けるようになっている

E(Eye level=アイレベル)...

視界が開けていて、歩きながら水辺の植物や野鳥などの景色を楽しめる

D(Diversity=多様性)...

学生や高齢者、観光客、外国人など多様な背景を持つ人々が、それぞれ自由に鴨川を利用していた

O(Openness=開放性)...

京都市の中心にあり非常にアクセスが良い



撮影地：四条鴨川



撮影地：天神川

まとめ

鴨川は、日常生活に溶け込んだ「**滞在型**」の河川であり、市民にとって身近な憩いの場となっている

場所ごとに異なる雰囲気があり、若者から高齢者まで幅広い層が**自然体で過ごせる空間**として機能している。またW.E.D.Oの視点からも、その整備や使いやすさ、都市との調和性において高い完成度を誇っている！



詳細な写真と説明はこちらから！